

ああ憧れのポケモンスタンプマスター

松崎 武志

小学1年の長男が、昨年末辺りから『ポケットモンスター』にはまり始めた。幸い『ポケモンGO』には興味を示していないが、『モンスターコレクション (モンコレ)』を頻繁にせがむようになった。当然のことながら、夏休み恒例の『ポケモンスタンプラリー』にも強い関心を持った。

『ポケモンスタンプラリー2018』は、まず首都圏のJR東日本の駅で配布されている専用の台紙を入手し、スタンプを置いてある55駅の中から6駅分のスタンプを集め、指定されているゴール (主に NEWDAYS) に持っていくと、『パスケース』と『スタンプ帳』がもらえる。これで終われば話は簡単なのだが、2つ目の賞品『スタンプ帳』が厄介である。この『スタンプ帳』には全55駅のスタンプを押す欄があり、これを全て集めると今年度は特製ビニールバッグがもらえるという企画なのである。既に集めた6つのスタンプは、台紙から切り取ってスタンプ帳に貼ればよいので、残り49駅を巡れば全駅達成となる。

8月9日(木)、東京都小平市に卒業生を訪ねる約束があった私は、妻から横浜・大船・大井町・恵比寿・品川・川崎のスタンプが既に押してある台紙を託され、中央線方面へと向かった。青春18きっぷを利用し、大崎・新宿・高円寺・荻窪・吉祥寺・武蔵小金井・立川・八王子でスタンプを押した。

8月13日(月)は長男を連れて10時頃家を出た。蒲田・浜松町・有楽町・神田・秋葉原・上野・錦糸町・船橋・津田沼・千葉・蘇我・稲毛海岸・新浦安・武蔵小杉・桜木町・石川町・東戸塚を押した。帰宅したのは19時過ぎだった。

翌14日(火)も長男とともに9時頃出発した。日暮里・北千住・亀有・松戸・柏・取手・牛久・新三郷・越谷レイクタウン・武蔵浦和・大宮・蓮田・上尾・桶川・浦和・赤羽・田端・巣鴨・大塚・池袋・高田馬場・四ッ谷・市ヶ谷・東京を押した。これで全55駅制覇なのだが、その手帳を池袋駅または東京駅の特設ゴールに持参しなければならない。しかも受付時間が10:30~17:00ということで、既に18時を過ぎていたため、その日は帰宅した。

8月15日から18日までは家族で北海道へ旅行していたため、18日(土)に羽田空港からの帰宅途中に東京駅へ赴き、念願のオリジナルポケモンビニールバッグを手に入れた。長男はビニールバッグを手に入れたことよりも、ひたすら電車に乗りまくった2日間のことの方が楽しかったようだ。しかし、私には猛暑の中、乗っては降り、乗っては降り、を繰り返した辛さしか残らなかった。道中、私と同じように息子さんや娘さんを連れて途中下車の旅をしているお父さんやお母さんにたくさん出会った。本当にお疲れ様でした。また来年の夏休みに向けて、英気を養おうと心に誓った。



2年前の本誌で『震災に遭う街』という拙文を書いた。それは、その年の鉄研の春旅行で九州を訪れた半月後に熊本を二度の震度7の地震が襲った、という内容だった。そして、今年は春旅行で四国や広島を訪れたが、7月に『平成30年7月豪雨』が愛媛や広島を襲った。

鉄研春旅行の4日目となる4月3日（火）の午後、私は中一（現中二）部員5名とともに予讃線に乗り、坂出方面へと向かっていた。生徒たちと同じ車両の離れたボックスシートに一人座っていると、年配の男性が同じボックス席に腰掛け、話しかけてきた。生徒を引率して旅行をしている、明日の夜には東京に戻ることを伝えると、自分もかつて東京の田町近辺に勤めていたことがあり、現在は引退して出身地に戻り暮らしている、といった身の上話を始めた。そして、今回は10日間くらいかけて九州を巡り、別府から八幡浜までフェリーに乗り、愛媛県にある自宅まで帰るところだと話していた。男性は伊予小松駅で下車していった。私は今、あのおじさんが元気でいてくれることを願っている。



現在の高校3年生が中学入学時の学年主任は丹羽真人先生だった。丹羽先生は私が高輪に着任してから最もお世話になった先輩教員の一人である。しかし、丹羽先生は彼らが中学二年に進級してすぐの5月に、急な病で亡くなられた。

彼らの中二修了時には10名の部員がいた。しかし、高2引退時まで活動したのは5名であった。部長は中学二年次には上級生からあまり信頼されていなかったが、徐々に頭角を現し、部長になってからはムードメーカーとしても活躍した。副部長は毎学期末には指名補習や成績認定課題と格闘しているが、黒板やホワイトボードに書く字は教員をも凌ぐほど上手であった。引退時に名残惜しさを隠さず、高3進級前の春旅行に参加した部員がいた。模型班班長は高い学力と天然さを持ち合わせていたが、ご家族からも多大なご協力を頂いた。高学祭執行部との太いつながりを遺憾なく発揮し、駐車場の編集に力を注いだ部員もいた。かつて部員が少なかった時代はこのように高3部員一人一人への賛辞を残らず載せていたのだが、近年は部員の増加によりそれができなくなっていたので、今年は久々に復活させることができた。

文部科学省による私立大学への入学定員厳格化により、今年3月に卒業した部員の中には再挑戦している先輩達が少なくない。どうか君達には来年4月から大学生になって、新しい勉強を始めて欲しい。